

## ～桜を守り、育てる桜守とともに～ 造幣局 桜の通り抜きの巡り方

北区の桜の名所、造幣局 桜の通り抜け。美しい桜を楽しめるのは、常に桜に愛情を注いでこられた桜守(さくらもり)の皆さんの存在があってこそ。造幣局の桜守・渡邊秀勝さんに、3年ぶりに行われる桜の通り抜きの巡り方を伺いました。

### ＊桜の通り抜けって？

造幣局の桜が見頃を迎える4月中旬頃の一週間、敷地内の通路が一般公開される催しです。1883(明治16)年に当時の局長が、「局員だけではもったいない。市民の皆さんと楽しもう」と呼び掛けたことで始まりました。

南門から北門まで約560m続く沿道いっぱいの桜は、もとは江戸時代の藤堂藩蔵屋敷にあったもの。造幣局が場所ごと引き継ぎ、ずっと大切に守っています。

### ＊どんな桜があるの？

今年、見頃を迎える桜は138品種335本。4月中旬頃に咲く、遅咲きの八重桜が中心です。八重桜は花びらが重なって咲く桜の総称。ボリュームがあり、満開時は思わず息をのむ素晴らしさです。

珍しい品種が多いのも特徴です。一つひとつの品種に親しんでほしいとの思いから、造幣局が毎年選ぶ「今年の花」。2022年は「福祿寿(ふくろくじゅ)」が選ばれました。大輪で、波打つような花びらの形が魅力です。その他、ボール状に咲く「大手毬(おおてまり)」、花の色が緑から中央部がピンクへと変化していく「須磨浦普賢象(すまうらふげんぞう)」、甘くて優しい香りがする品種などにも注目です。



今年の花「福祿寿」



大手毬



須磨浦普賢象



### ＊桜守の仕事って？

桜守とは、美しい桜を守るため一年を通して手入れを施す人。造幣局の渡邊秀勝さんは、桜守30年の大ベテラン。「大阪出身ですが、実は造幣局に勤めるまで桜の通り抜けを実際に見たことがなかったんです」と笑います。今や中心となって、毛虫などの駆除、枝の剪定、散水管理といった地道な作業を、春夏秋冬と休みなく続けています。

約10年前から渡邊さんが中心を担うようになって、より多くの人に桜を楽しんでほしいと栽培品種を工夫。秋～冬に咲く品種を造幣博物館の近くに植えるなど、春以外の季節にも近くを訪れる人に癒しを届けています。

ぜひ、実物の桜を体感してください。写真や映像とは比べられない感動があります。ピンク色といっても濃淡の違いはもちろん、黄色や緑色の花を咲かせるもの、香りがするものなど、珍しい品種を一度に楽しめるのは造幣局ならではの。今年こそ、桜の木の下でお会いしましょう。造幣局の桜守・渡邊秀勝さん

### 令和4年 造幣局 桜の通り抜け 要予約

📅 4/13(水)～19(火) 10:00～20:00 ※土日9:00～20:00

【申込】ホームページでの事前予約制  
(申込先着順) 造幣局HP▶

📞 造幣局ハローダイヤル

☎ 050-5548-8686(9:00～20:00)



## 学芸員がおすすめ! 写真で巡る造幣博物館

桜のトンネルの途中に建つ造幣博物館。造幣事業や貨幣にまつわる貴重な展示は、北区の歴史を体感できる品々ばかりです。「まちをよく知る区民の皆さんだからこそ、昔と今のつながりをより一層感じていただけるはず」と学芸員の山崎祐紀子さん。北区民が知っておきたい見どころを、写真とともにご紹介します。



撮影協力:大阪工業大学写真研究部  
平井喜一さん

見どころ

### ① 来館者を出迎える大時計

1階エントランスホールの大時計は、かつて造幣寮(現在の造幣局)の正面玄関にあったもの。1876(明治9)年に、工作方技師だった大野規周氏が製作しました。

今も毎朝、造幣局の職員が時計のネジを回し、約145年の時を超えて、時間を刻み続けています。当時の人々も聞いていた1時間ごとに鳴る時計の音に耳をすませてみてください。

時を刻み続ける大時計

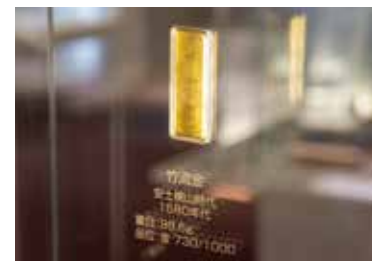


(写真提供:造幣博物館)

見どころ

### ② 大川の底から発掘された貨幣

3階展示室には、古代に作られた中国貨幣をはじめ、日本の古代から近現代までの貨幣などが展示されています。なかでも豊臣時代の大判や小判は必見。竹流金(たけながしきん)、菊桐金錠(きくきりきんじょう)は、大川の底から1935(昭和10)年に偶然発掘されました。大坂城落城の際の遺物といわれ、お金の重さで貨幣の価値が決まっていた秤量金貨幣のひとつです。



豊臣秀吉の家紋が刻まれた竹流金



ガラスにはめ込まれた貨幣の立体展示。LEDライトで照らされ、貨幣の裏表がくっきりと見えます

見どころ

### ③ 機械遺産認定された硬貨圧印機

博物館北側の屋外展示は人気の撮影スポットです。展示された創業時の硬貨圧印機2台は、日本の貨幣制度整備に大きく貢献、2021年には機械遺産に認定されました。写真左のトネリ工硬貨圧印機は、五代友厚らが尽力し、閉鎖されていた香港造幣局から購入したものといわれています。



(左)トネリ工硬貨圧印機(フランス製)、  
(右)ウールホルン硬貨圧印機(ドイツ製)



1969(昭和44)年開館。昨年、150周年を迎えた造幣事業の紹介を目的に、造幣局が保管している貴重な国内外の貨幣などを展示しています。建物は1911(明治44)年に火力発電所として建てられたもので、構内に残る唯一の明治を象徴するレンガ造りの西洋風建物です。

🕒 9:00～16:45(最終入館16:00)

※毎月第3水曜、年末年始、桜の通り抜け期間、展示品の入替時等は休館

🆓 無料

📍 造幣博物館(天満1-1-79) ☎ 06-6351-8509

造幣博物館  
ブログ▶

